

第18回 十勝川中流部川づくり報告会

十勝川中流部 河川工事の経過

令和3年10月23日
帯広河川事務所

十勝大橋上流草地復元イメージ図（十勝川左岸 KP56.8-57.7） [平成 25 年度帯広農業高等学校 担当区]

作成：平成 26 年 3 月 15 日
第 4 回十勝川中流部川づくり報告会

第 1 班コンセプト：人と生物とが共存できる場所の形成

私達が考えたセールスポイントとしては、河岸沿いに川からの浸水がある程度防ぐことを目的に地形の切り盛りを付けた所です。
それと山菜や原生花園を配置したゾーンをレイアウトし、訪れた人々を楽しませることです。
また、草地ゾーンとして背丈の高い草を植え小動物の通り道とすることを考えました。

第 2 班コンセプト：散歩しながら自然の空間を楽しめる草原

僕たち 2 班のセールスポイントは、この場所に 1 本しかないサクラの木です。
この場所は「散歩しながら山菜などが取れる憩いの場」となるような場所を考え、サクラの木を中心に広い空間を作り、その周辺を散歩できる道路を考えました。
通路の間には山菜やきれいな草花が咲く空間、それと川沿いには自然に生える草花の場所の 3 つの散策コースを作りました。
私達が考えた散策路は、工事で発生した表土を高さ 50 cm 程度の高さのもの、幅 3.0 ~ 3.5m 程度のものを考えています。

第 3 班コンセプト：「人が出会う里地」「十勝川花火大会の見やすい丘」

僕たち 3 班の考えは、「人が出会う里地」をテーマに考えました。
その理由は、高水敷には遊歩道、低水敷には車が通れる道路があり、人と人が出会う機会があるためです。
もう一つのセールスポイントは、丘を作り花火大会が見える場所を考えました。
山菜ゾーンとヨモギゾーンを川側にした理由は、水分の供給が受けやすいものと考えました。
その他ゾーンは草花をレイアウトしました。

第 4 班コンセプト：タンチョウを、十勝大橋を横断させる

現在タンチョウが飛来している箇所は、相生中島地区まで来ています。
それで私たちはタンチョウを十勝大橋を横断させてこの場所に飛来できる空間を考えました。
タンチョウが飛来する箇所には工事で発生した表土で起伏を作り、その高い部分にデントコーンを置き給餌場になる場所を考えました。
結果、保全する樹木帯以外の場所の殆どが飛来ゾーンです。
また河岸沿いに道路がありますので、その周りには原生花園を植え、景観が良くなるように考えました。

第 5 班コンセプト：自然に触れ合える空間づくり

5 班は、訪れる人々が山菜や花など、自然に触れ合えることをテーマに考えました。
この場所は十勝大橋が近くにありますので、日陰部分を利用して山菜などが出来たら良いと考えここにレイアウトしました。



凡例

原生花園ゾーン	オレンジ色
山菜ゾーン	黄緑色
盛土ゾーン	緑色
在来草地ゾーン	薄緑色
樹林保全ゾーン	濃緑色 (樹木記号)

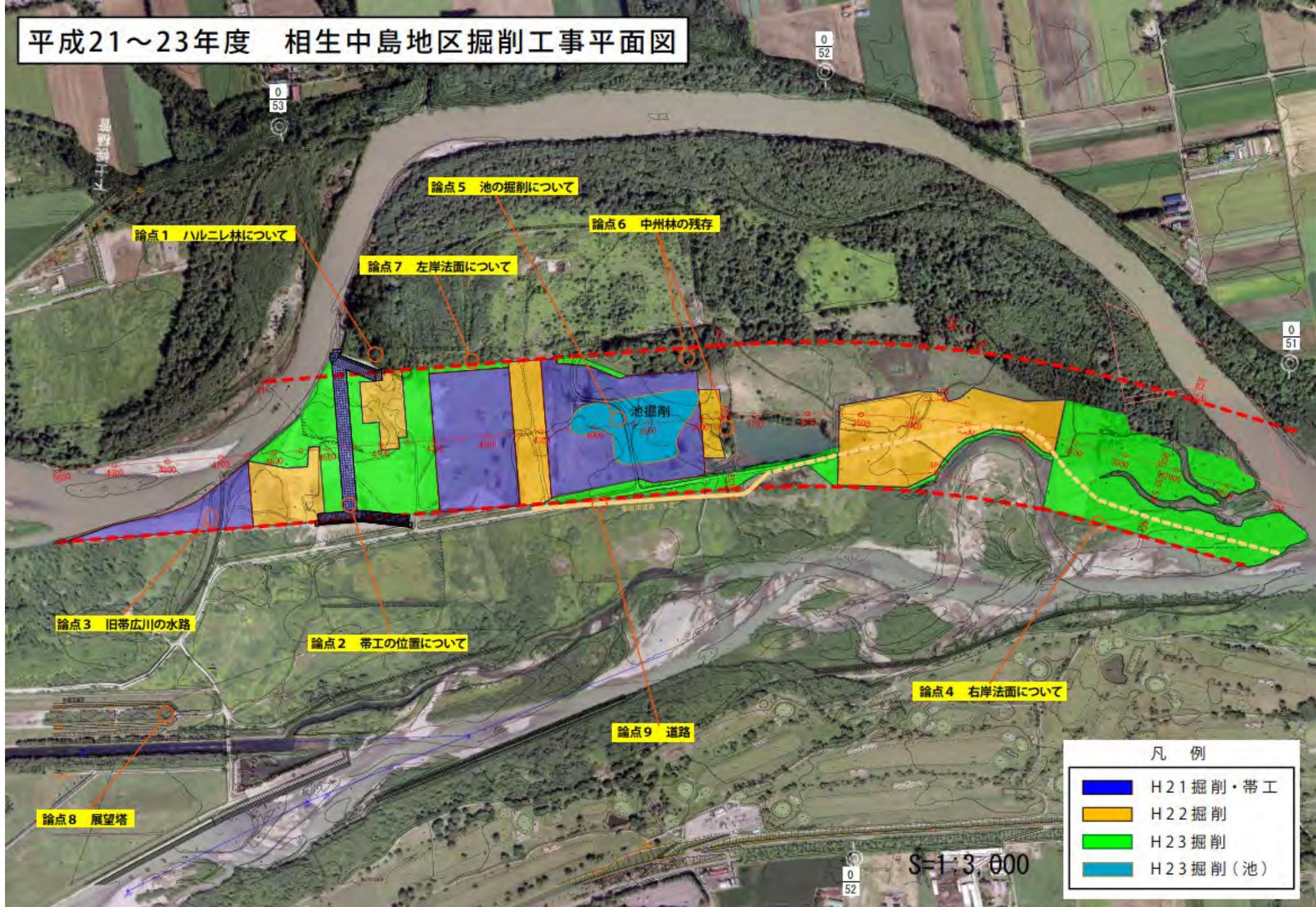




現地の確認



平成21～23年度 相生中島地区掘削工事平面図



凡例

	H21掘削・帯工
	H22掘削
	H23掘削
	H23掘削(池)



鳴鶴橋上ノ

札内川

54.0

51.0

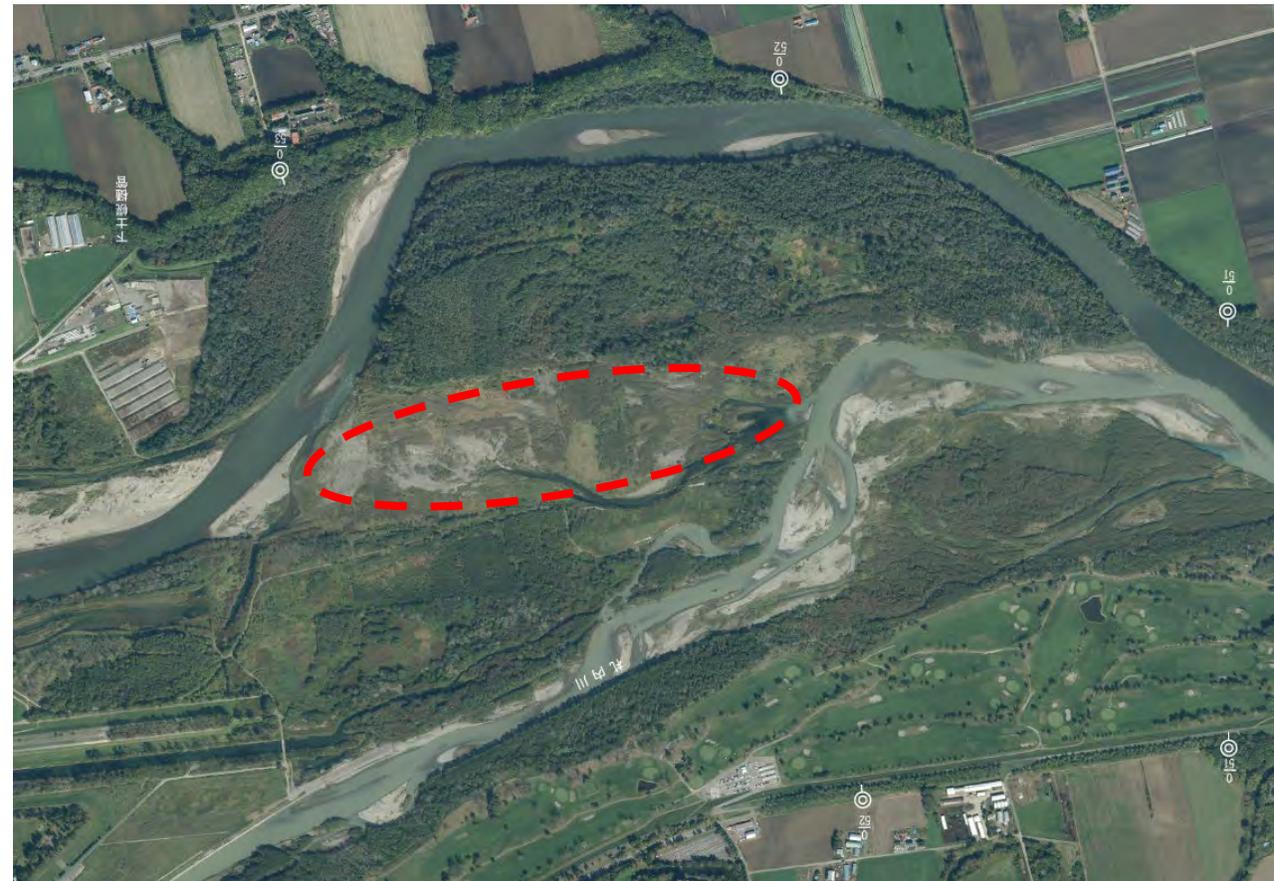
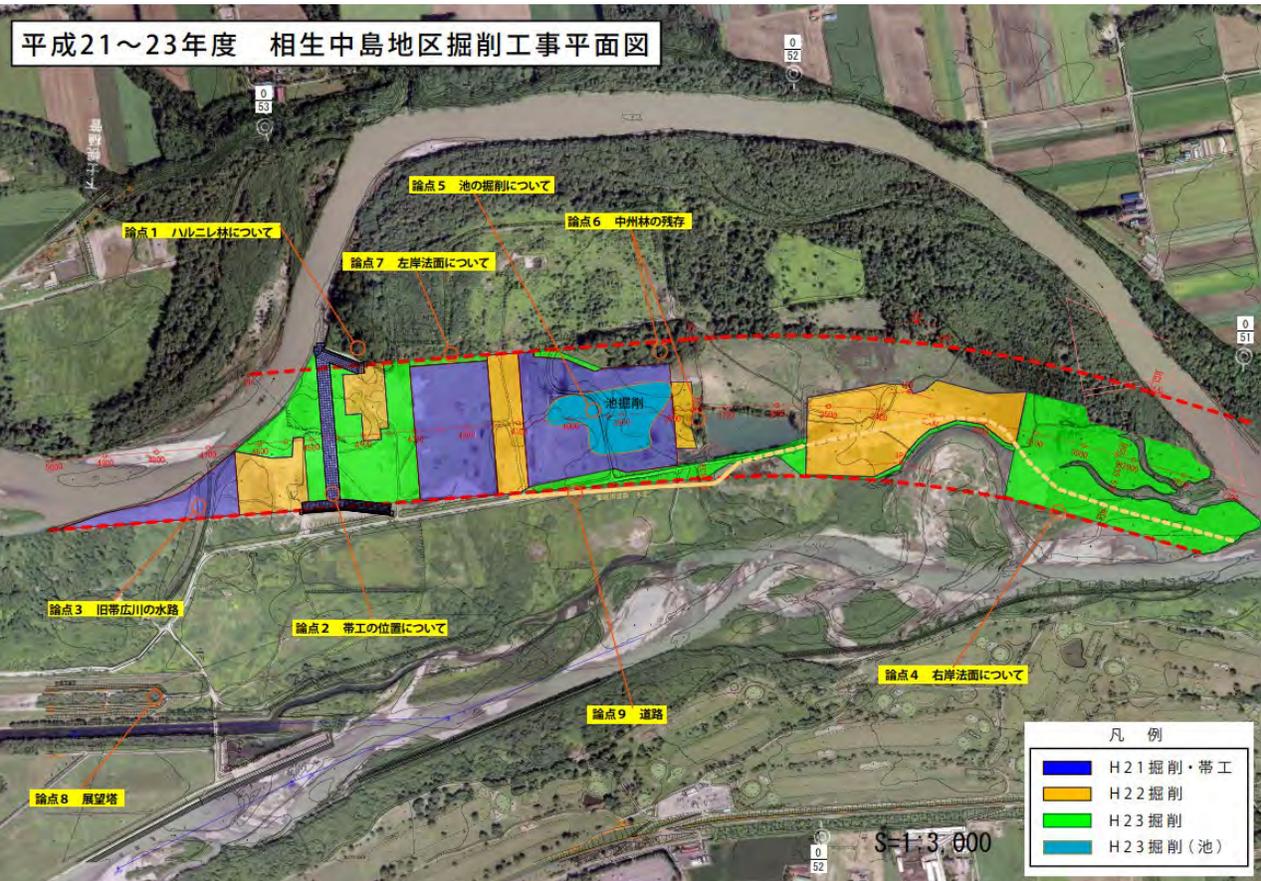
52.0

51.0

51.0

52.0

51.0



相生中島地区川づくり以降
 H23洪水、H28洪水で堆積した土砂
 樹木繁茂の抑制(これまで)
 堆積土砂の掘削(今後)